様式3

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学校番号 30

福岡県立宗像高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

			評価（総合）
学校運営方針	(1)校訓「質実剛健　自彊不息」を体現するため、学習活動・学校行事等において生徒の主体性を重視しつつ、幅広い教養の獲得を促す教育活動を推進する。 (2)激しく変化し、多様化する社会に柔軟に対応するため、人権感覚を高め、幅広い経験に基づく人間形成を図る。 (3)自己実現を図る進路目標を設定させ、その達成に向けた取組をチームで支援する指導体制を構築する。		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
中高一貫教育校の特色を活かした魅力ある教育活動を通じ、その集大成として難関大を含めた多様な希望進路の実現を高度に達成できた。 コロナ禍にありながら、生徒は変化に柔軟に対応し、学校行事で主体性を発揮する場面も多く見られ逞しさを感じることができた。 今後は更に魅力ある中高一貫教育校として6年間を見通したマトリクス等の作成及び教育システムの継続的改善・充実を図っていかねばならない。	幅広い教養の獲得を促す学習指導と授業改善	生徒の主体性に重点を置いた学習指導を展開し、生徒が課題意識を持って自ら学習に取り組む姿勢、粘り強く物事を探究する姿勢を育成する。	
		生徒の実態を踏まえ、生徒の力を最大限伸ばすために、ハイブリッド型学習をはじめとする「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。	
		大学入試改革に対応した学習指導の研究と実践に取り組むと共に、個々の多様な進路希望に対応する教科指導力の向上と指導体制の整備を推進する。	
	幅広い経験に基づく人間形成を図る生徒指導	ルールやしくみの意味についてよく考え、その理解に基づいて自らを律し、生徒相互の力によって、より良い学校生活を実現する意識と姿勢を育成する。	
		生徒の主体性を重視した学校行事や部活動を通して、自己の役割に対する責任感の醸成を促し、何事にも主体的に参画していく姿勢の育成を図る。	
		学校生活の多様な取組を通して、生徒の自尊感情と母校愛を高め、リーダーシップと粘り強く物事に挑戦する姿勢を育成する。	
	高い志を持って自己実現を図る進路目標の設定とその達成を支援する進路指導	中高一貫教育校として、6年間を見通した進路指導・キャリア教育の体系的指導計画（マトリックス等）を策定し、継続的にその改善・充実を図る。	
		模擬試験等の的確な分析を行い、生徒の客観的状況の正確な把握とその共有を図るとともに、一人ひとりの可能性を引き出すための指導方法の研究を行う。	
		「夢に向かって」の意義等について指導を徹底し、「夢に向かって」を継続的・効果的に活用し、自らの将来の目標実現に向けた実践力を育成する。	

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教育推進部	教育計画課	本校の教育目標を実現するための学習指導について研究する。	新学習指導要領および大学入試改革に対応した教育課程を策定する。	A	A	A	・校務支援システムの効果的な利用についての継続的な研究。 ・クラス数増や新時制導入に伴う課題を明らかにし、早い段階での対策の検討。	A	○奨学金が進学の足かせになっているのならば、新たな方法を研究する時期に来ている思われる。 ○教育計画課の成果に校務支援システムのマニュアルや関連システムの作成を行った今後の活用の基本になり評価できる。 ○宗像市の自治会研修会にボランティアとして参加されたことはとても素晴らしい。子ども目線をプラスすることで新しい町づくりが生まれる。 ○タブレット端末の効果的な活用を期待している。地域行事、市内中学生との交流機会が増えるとよい。
			校務支援システムやハイブリッド型学習について研究を重ね、生徒の学習活動を支援する。	B					
		学年や他の分掌・教科と連携し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習指導を支援する。	学年や他の分掌・教科と連携し、生徒の個別指導を支援する。	A	A				
			主体性を持って粘り強く探究する生徒を育成するために、効果的な評価の観点を研究する。	B					
	企画庶務課	学校教育目標につながる式典やPTAの活動を企画・実施する。	中高が一体となった式典やPTA活動ができるよう、他分掌と連携する。	A	A		・儀式的行事のオンラインと対面の実施についての判断基準の検討。 ・奨学金に関する情報をより広く公開するための方策の検討。		
			行事において、オンラインの効果的活用をさらに推進する。	A					
		生徒や職員の学校生活の充実に資する活動を展開する。	同窓会との連携を深め、教育環境の充実を図る。	B	B				
			奨学金等の周知に努め、生徒の進路設計を支援する。	A					
	広報課	宗像高校の魅力を発信する効果的な広報活動を展開する。	ホームページ、インスタグラム等をタイムリーに更新し、内容の充実を図る。	A	A		・業務にあたれる広報課職員の増員とともに、広報活動を行える機材（IPad等）の確保。 ・外部や生徒会と連携をはかり、絶え間なく広報活動をできる体制整備。		
			中学校への情報発信、中学校訪問等の広報活動を強化する。	A					
		地域や近隣の学校と情報を共有し、連携を図る。	積極的に外部と交流し、学校の良さをアピールし、発信する。	B	B				
			生徒会や同志を募り、各種イベント、ボランティアへ積極的に参加を促す。	B					
生徒支援部	生徒指導課	質実剛健の精神に基づき、高い規範意識と自律の精神、共感する力を持った生徒の育成を目指す。	日々の生活で元気に、明るく、さわやかな挨拶ができ、自己責任能力や道徳心を持った生徒を育成する。	B	B	B	・社会情勢に対応した校則の随時見直し。 ・集団への帰属意識と思いやりを育む生徒指導の推進。	A	○清掃はマンネリ化を避け、ひとつひとつの行動を意味あるものにして清掃を行ってほしい。 ○生徒指導課の課題に特別指導や携帯電話使用に関する指導が例年より多いとあり、規範意識の再確が必要と考える。 ○校則はゆるまったと聞く。変えられなかったものを再度検討してほしい。 ○社会人になった時のことを見通して望ましい人間像を教え導いてほしい。
			安全な学校生活の確立を目指し、ルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。	B					
		志を高く掲げ、生徒会活動や部活動を通して目標達成に向けて果敢に挑戦する勇気を持った生徒を育成する。	生徒会活動への積極的参加を促し、学校行事等の在り方について点検・改善を図る。	A	A				
			学校行事や部活動等を通してリーダーを育成するとともに目標に向けて挑戦し続ける生徒を育成する。	A					
	保健環境課	生徒に自らの健康に関する意識を高めさせ、配慮を要する生徒には速やかに対応し、全生徒が心身ともに健全で安心できる生活環境を整える。	生徒の状態を把握し、収集した生徒情報を共有し、素早く還元するための方策を充実させる。	B	A	A	・コロナ禍による様々な影響を受けた生徒への支援と健康の保持増進。 ・新時制に応じた日々の清掃から月掃除・大掃除のあり方の検討。		
			スクールカウンセリングによる相談事業を有効的に行うため、ニーズに応じた最良の支援を実施する。	A					
		継続的な感染症対策に加え、日々の清掃から大掃除まで、自ら意欲的に美化衛生活動へ取り組む姿勢を定着させる。	学校や地域に対する感謝の気持ちや誇りを持ち、校内美化や環境保全活動に、積極的に取り組む生徒を育成する。	A	A				
			保健・環境・美化委員会の活動への支援を通して、何事にも主体的に取り組むことの大切さを生徒へ浸透させる。	B					
進路支援部	進路指導課	入試および希望進路の多様化に対応し、進路実現のための指導体制を整備する。	入試の多様化に関する情報を共有し、指導法に反映させるとともに、生徒への適切な情報発信に努める。	A	A	A	・新課程と新しい時制に対応した進路行事の検討。 ・難関大学志望者への継続的な取組み。	A	○大学の進学が全国へ拡がっているとのこと。宗像中の開設が大きく良い意味で影響していると思われる。「宗高から日本へ、そして世界へ発信」となっておりすばらしい。 ○進路指導課の課題にあるが朝課外廃止に伴う自学をサポートする体制づくりが新たに必要になるので検討にご尽力いただきたい。 ○「夢に向かって」を書くことが目的とならないように効果的な活用をお願いしたい。 ○一年次の文系・理系選択に十分な情報提供をお願いしたい。
			外部講師を招聘するなど、多様な進路希望に対応するための方策を実施する。	A					
		興味・関心、資質・能力を踏まえた進路選択および受験種類の選択ができる生徒を育成する。	模試結果等を進路選択や的を絞った学力補充に生かせるように各学年で分析し、全体で共有す	B	B				
			「夢に向かって」の活用を促し、進路実現に不可欠な学力を身に着けるための学習習慣を意識づける。	B					
	キャリア教育課	「総合的な探究の時間」の充実、改善に努める。	「総合的な探究の時間」において、教員による効果的なサポートを行う。	A	A	A	・教員による、探究の手法の指導と支援。 ・大学との連携により、生徒が多様な学問分野に興味を持つ機会の設定。		
			生徒の興味のある学問につながる探究課題に粘り強く取り組ませる。	B					
		自己理解を深めるとともに、自己実現に向けて広い視野を持たせる。	キャリアパスポートを活用し、見通しを立てたり振り返ったりすることで自己理解を深める。	B	A				
			大学等との連携事業を積極的に行い、各学問分野についての理解を深める。	A					
研究開発部	研修課	教育改革に伴う変化に的確に対応するために職員研修の充実と精選をはかる。	生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修を企画し、実施する。	A	A	A	・研修テーマに関する希望調査、他分掌との連携 ・校内外の先進的な事例に関する情報の収集と共有・発信	A	○今後の読書の在り方を考えると紙からデータへと変換している。「電子図書館」を将来的に考えてみてはいかがでしょうか。読書時間の確保、動画にない良さの説明等が必要。 ○職員の日々の教育活動に必要なスキル向上研修や、授業のハイブリット化が広がっていることは評価できる。 ○ICT活用での良い事例の共有がされていないのは残念です。このような共有はできるだけ早く、そして常にアップデートされていってほしい。
			観点別評価や新教育課程への対応等、より現実に即した指導力向上のための研修を実施する。	B					
		「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。	対面指導とオンライン指導を合わせた「ハイブリッド化」という指導モデルについての研究・実践を推進する。	B	A				
			様々な形態でのアクティブラーニングによる教科指導の方法について、研究・実践を推進する。	A					
	図書課	生徒の主体的な学びを支援する「学習情報センター」としての機能を充実させる。	選書委員会や総探委員会と連携を取り、授業での学びを拡大深化させるための書籍の収集に努	B	B	B	・時制や学校行事の変更を考慮した図書館行事の見直し。 ・行事過程の記録保存の徹底とICT機器活用技術の習熟。		
			図書館内にある書籍・情報を積極的に紹介・案内し、探究的学びを支援する。	A					
		生徒及び図書委員会の協働的な活動を促す取り組みをし、「読書センター」としての機能を強化す	生徒及び図書委員会の活動や成果物を積極的に発表・評価し、主体的な読書活動を奨励する。	A	B				
			各図書館行事を通して、生徒及び図書委員会の協働的な学びの機会を有意義なものとする。	B					
学年部	第1学年	高校生としての基本的生活習慣を確立し、自尊意識の高い生徒を育成する。	あいさつ、時間厳守、服装の整美、清掃について主体的に取り組む姿勢を育成する。	B	B	A	・「夢に向かって」や個人面談のさらなる充実。 ・入学者の多様化に対応した指導体制構築。	A	○人生100年時代、焦らず夢は実現していくためにも、情報を提供していただきたい。 ○不登校生徒や学校に馴染めない生徒への対応を組織的に行なう必要があり、生徒の悩みも複雑多岐になっていると考えるが、更なる対応策に期待したい。 ○全教員一致団結の元、修学旅行をはじめとする行事や日々の教育活動を実践でき、生徒の主体性を育成できたことを評価すする。しかしながら、課題も見受けられるので進級時に一つでも改善されることを望む。 ○コロナ禍の影響を受けたことで、行事不足による経験が少ない中でも教員・生徒が一体となり新時代に即した形の学校行事を成功させたことを評価する。 ○成功体験・失敗体験両方を数多くしてほしい。汗と涙を流す場面。 ○個々の希望によりそった進路指導をこれからも続けていただきたい。
			学校行事や部活動に積極的に参加し、主体的に取り組む姿勢を育成する。	A	A				
		学習習慣を身につけさせ、早期から「学ぶ」ことへの意欲を高める。	「夢に向かって」を活用し、自ら学習する姿勢と基礎学力を定着させる。	B	A				
			総合的な探究の時間等を通して粘り強く物事を探究する姿勢を育成し、進路意識の向上を図る。	A					
	第2学年	自ら課題を設定し、達成のために自ら進んで努力を続ける生徒を育成する。	「夢に向かって」を活用し、計画的に学習を進め、こつこつと学習を継続する姿勢を育成する。	B	A	B	・夢に向かっての積極的活用。 ・幅広い学力層に対して、指導の工夫。		
			多様な生徒がいる中で、生徒それぞれが自らの進路に対して明確な目標を立て、その実現のために意欲を持って学びを進めていく姿勢を育成する。	A					
		中堅学年として、後輩の模範となり、先輩を支える、学校の中心的存在としての意識を持たせる。	学業、部活動、生徒会活動の中心として、意欲的に活動に取り組み、学校を牽引する意識を持たせる。	B	B				
			礼儀・礼節を重んじ、朗らかな挨拶の出来る、明るい生徒を育成するため、日々の意識向上に取り組む。	B					
	第3学年	主体的に学習し、夢に向かって粘り強く最後まで努力する生徒の育成する。	「夢に向かって」を継続的・効果的に活用し、課題意識を持って自主学習に取り組む姿勢を育成す	B	A	A	・欠席・不登校の増加およびそのサポート体制の再構築。 ・協調性や主体性、耐える力の育成。 ・上位層の難関大、下位層の基礎定着など、各層への適切な指導体制の確立。		
			入試に対応した計画的な学習指導を行い、幅広い学力層・多様な進路希望に対応した進路指導体制を確立する。	A					
		最高学年として、学校を牽引する自覚と統率力を持った生徒の育成する。	生徒・教員が一体となって学校行事や部活動を行うことで、何事にも果敢に挑戦しリーダーとして活躍できる生徒を育成する。	A	A				
			日々の継続的な生徒指導により、感謝の気持ちや謙虚な姿勢を育み、最高学年としての自覚、礼節ある生徒を育成する。	A					
学校いじめ防止基本方針		全職員の共通理解の下、組織的にいじめを生まない学校風土作りを推進する。	個人面談や教育相談を定期的・計画的に行い関係職員で連携して課題解決に臨む。	A	A	A	・学校いじめ基本方針に則り、職員・生徒・保護者の共通理解のもと、いじめ問題への取り組みを進めていく。	A	○教員の共通理解のもと、今後とも取り組んでいただきたい。
			定期的なアンケートを実施し、日常的に生徒の行動の様子を把握する。	A					
		いじめ・不登校対策委員会で定期的にとり組みを検討・改善する。	校内研修により職員の共通理解を図り、スクールカウンセラー等専門家の意見を交え、担任や職員全体への助言等を行うように努める。	A	A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・Instagram等のSNSを活用した中学生への広報活動を、生徒目線を考慮し、生徒主体の取組に変えていく。
・「夢に向かって」の教員と生徒のコミュニケーションツールとしての機能を再度見直して活用を図っていく。
・生徒自身に校則について考えさせる機会をさらに設け、時代に即した校則への見直しを引き続き行う。
・生徒が進んで図書館利用を行うための新たな方策を考えて実施していく。
・生徒の進路選択が、日本全国に広がるように、大学に進学した先輩方による講話等を積極的に行う。

評価項目以外のものに関する意見

○PTA活動も復活しているようだがコロナ禍で必要なものそうでないもの区分ができ、前例にとらわれることなく、負担にならないように検討してはどうか。